

2期目再選後初の県議会で『厚生常任委員会委員』に就任。  
福祉、医療、子育て等から生活衛生まで、大変幅広く審議する大切な委員会です。  
初の委員会で緊張し、懸命に取り組んでいます。  
以下、6月議会と9月議会での私の委員会質疑を概略ご紹介させていただきます。

# ひらこう 県政新時代！！

よしなか

## 神奈川県議会議員 おざわ良央



### 6月議会

#### 1 県西地域医療構想（小田原市立病院、足柄上病院 他）について

**おざわ** 県西地域は県の面積の1/4、人口3%、35万人弱。医療体制の維持に課題も多い。小田原市立病院の建て替えもあり、足柄上病院との連繋を踏まえどう対応するか。

**医療課長** 医療機関相互の連繋が大切。県は“コーディネーター役”で汗をかく。また国基金も含めて支援等の検討をしていく。

**病院課長** 在宅医療の充実、医療従事者の確保・養成が課題。両病院は産科、整形外科等で既に連繋を深め、今後とも進めたい。足柄上病院は地域の信頼と期待に応えて行く。

**おざわ** 小田原市立病院の建て替え支援と足柄上病院の充実強化に、地域を守るため県としてしっかり取り組んでほしい。

#### 2 津久井やまゆり園の再生について

**おざわ** 身体、知的、精神障害や難病の方が近年増加傾向。入園希望者のニーズに対応し、質の高い支援の提供と役割を果たしてほしい。

#### 3 さがみ緑風園の将来方向検討委員会報告

**おざわ** 近年、重度の身体障がい者在宅サービスや訪問看護、また介護医療院の創設等あり地域での生活も可能になった。求められるネットワークや仕組みをつくり、医療と介護が一体の支援提供を要望する。

### 9月議会

#### 1 「医師確保計画」の策定について

**おざわ** 国の医師偏在対策で県は「医師確保計画」を策定する。本県の人口比医師数は全国39位。特に県西地域は不足し、働き方改革等で今後が心配。本県内4大学医学部卒業生の県内定着に特別な対応を図れないか。

**保健医療人材担当課長** 医学部入学定員増の「地域枠」継続を国へ要望。着実に医師の確保と偏在の解消に努める。

**おざわ** 地域の声を踏まえて偏在対策や確保計画を進めてほしい。併せて県内大学の医学部定員増へ向けて今後とも努力して欲しい。

#### 2 県立病院機構の第3期中期目標策定

**おざわ** 病院機構は、がん、精神医療、こども医療、循環器呼吸器病の4センターと足柄上病院の5病院を運営、赤字体質にあり課題も多い。策定の基本的考え方や特徴等を伺う。

**県立病院課長** 引き続き高度・専門医療や地域医療の提供等、県民目線で安全・安心な医療を安定的に提供し、業務運営や財務内容の改善等、健全な経営基盤の確立を掲げた。

**おざわ** 中期目標では、足柄上病院との連繋や支援は、小田原市立病院というより、むしろ病院機構が主として担うべきとし、不足資源や人材は機構内で担い、県西地域の医療体制の一層のボトムアップを期すべきである。

#### 3 神奈川総合リハセンターの再整備工事

**おざわ** かつては東洋一の七沢病院と言われ、先進的なリハビリ治療を提供し、専門的治療や最重度の方に特化した病院である。県民期待の再整備工事はいろいろ指摘されているが、遅滞なく順調に進むことを望む。

**健康医療局長** 県民、利用者への説明や県議会対応に意を尽くし、再整備工事を進める。

#### 4 共生社会実現への外出支援モデル事業

**おざわ** 高齢者や障がい者、子育て中のお母さん等の外出支援を、地域住民、行政等の関係者が協力する仕組みづくりを県が後押しするモデル事業だが、どう推進するのか。

**共生社会推進課長** 市町村へのヒアリングで、必要だが難しい事業と受け止めた。移動手段のモデル事業として、後押しをする。

**おざわ** 事業の成果や課題を蓄積し、県内の様々な地域に取組みが広がるよう積極的な対応を望む。